

メインフレームへのコミットメント：メインフレーム人材の育成

The Mainstream, 2005 年 15 号より

The IBM zSeries および *S/390* ソフトウェア ニュースレター

CIO の方は今日の激しいビジネス環境の中で様々な課題を抱え、「十年以内に退職するであろうメインフレームのプロフェッショナルをどうやって補充するか」という問題までも抱え込みたくはないことでしょう。

しかし、過去 20 年の間、大学からメインフレームの知識を携えた新しい人材が年々減少している現実直面し、IT マネージャーは今、頭を抱えています。「ビジネスの基盤となっているメインフレームは今後一体誰が動かしていくのだろうか？」

IBM System z9® のテクニカルサポートとマーケティングディレクターの **Mike Bliss** は次のように言います、「各企業はこの問題に気づき始めています。もし数年のうちにこの問題に対処しなければ、深刻な技術者不足が生じるでしょう。」

2010 年までに 2 万人—世界中の主要企業を支えるシステムを動かす若い人材を育てるため、IBM は次世代のメインフレームの教育を受ける学生達を育てようとしています。世界中の大学や専門学校数百校へメインフレームの授業を戻し、最終的には若い卒業生達と、彼らを必要とする企業を結ぶ計画を最近発表しました。

歴史的な過去

メインフレームは 1950 年代と 60 年代に新しいビジネスコンピューティングの革命的な時代を世界にもたらしました。1964 年に発表された IBM® System/360® によって、ユーザーは初めて複数のジョブやワークロードを同時に実行できるようになりました。企業はコンピュータの可能性を歓迎し、間もなく給与や保険料の支払いから経費清算までを CICS® トランザクションに任せるようになりました。膨大で、複雑な作業をこなすメインフレームの機能は 1960 年代に NASA の宇宙飛行士を月に送り、何百万人分もの医療保障カードの発行を可能にしました。

しかし、70 年代、80 年代に分散コンピューティングが登場し、Windows® や UNIX® のようなシステムに関心が集まり、デスクトップ・コンピューティングが実現しました。業界関係者はメインフレームを時代遅れ、と宣告しました。

「メディアがメインフレームを恐竜扱いし始めたと同時に若いプロフェッショナル達の輩出が減ってきてしまったのです」と業界で最も古いコンピューター・ユーザーグループ、SHARE の会長

Robert Rosen 氏は言います。「長期的な雇用の見込みが望めないと思われたためでしょう。」

大学や専門学校のカリキュラムからメインフレームの授業は外され、クライアント・サーバーに焦点を当てた **UNIX** や **Linux**® の授業に取って代わられました。しかし、その後も '**Big Iron**' は縁の下役目を担い、重要な役割を果たし続けていました。

長期的な展望へのコミットメント

しかし **IBM** はメインフレームへの投資を継続し、ビジネスもメインフレームに依存し続けました。そして今日、メインフレームは繁栄し続けています。一分間に数千にも及ぶユーザー・アクセスや何百万のトランザクションを、銀行や金融等の企業が要求する安全で信頼性のある処理で応え続けられるのは、メインフレームに他なりません。

電子商取引に必要な費用効果の高い、強固で洗練されたトランザクション処理は、あらためてメインフレームの必要性を再認識させました。**IBM System z9**® は大量のトランザクションに対して、最高の可用性をもつ、信頼度の高いソリューションです。

そして **IT** 企業がオン・デマンド時代に入ると共に、メインフレームは一つのプラットフォームからすべてのシステムの管理が可能なセントラル・ハブとしての新しい役割をになうようになります。**2005** 年 **7** 月に発表された新 **IBM System z9** メインフレームとそれをサポートする数々のソフトウェア製品により、企業はメインフレーム・コンピューティングの本来のメリット – 可用性の高さやセキュリティ、効率のよいリソース・バランスや無比のトランザクション・ボリュームなど – を分散されたシステムの隅々まで広げることができるのです。更に、様々な変化に迅速に敏感に反応するために **SOA** プラットフォームとして拡張することもできます。

「新しい機能によって、メインフレームは企業内でより大きな役割を果たせるようになります」と **Bliss** 氏は語ります。「学生や若い **IT** プロフェッショナルにとって、チャレンジしがいのある仕事が増えるだけでなく、若い卒業生や再度トレーニングを受ける人にとっても雇用のチャンスが広がるわけです。」

若手の養成

IBM は、この機会増大のニュースを広めるため、各国の大学や専門学校でメインフレームの教育を復活させる世界規模のキャンペーンを開始しました。各校では特別に構成されたコースやメインフレーム・ハブへのリモートアクセスを利用して実際に使ってみることができます。学生は、プログラムの種類によってメインフレーム上で **CICS**®, **IMS**™ や **DB2**® など幅広い技術を身につけること

ができます。

200 近い学校が既に手続きをしており、**IBM** は年末までに **300** 校という目標に達するでしょう、と **IBM** のメインフレーム・ディビジョン、アカデミック・イニシアティブのプログラムマネージャー、**Don Resnik** 氏は語っています。更に効果を上げるため、**200** 人の **IBM zSeries®** 社員がボランティアで「大学大使」として必要に応じたトレーニングや学部へのプレゼンテーションなどを行っています。

「今現在で、目標の学生数の4分の1までできています、」と **Resnik** 氏は語ります。「**2010** 年までには、メインフレームの教育を受けた学生数が2万人、という目標を超えることができるでしょう。」

バック・トゥー・ザ・フューチャー

就職機会の保証がコンピューターサイエンスの学生達からも共感を得ています。

たとえば、**IBM** からの問いかけに応えたアーカンソー大学はインフォメーション・システム プログラムに、**80** 年代後半以降カリキュラムから消えていたメインフレームのコースを二つ最近加え、今年には **30** 人の学生が受講を申し込んでいます。

「この世代の若者がメインフレームの環境について知る機会があまりないので、これだけの学生が興味を持ってくれるのは素晴らしいと思います。」と **Sam M. Walton College of Business** の情報システムの教授、**David E. Douglas, Ph.D.** は語っています。「メインフレームには様々なアプリケーションがあり、学生にとっても就職のチャンスが確実にある、と生徒達に説明しています。」

若いプロフェッショナルへのサポート

IBM は **20** 代、**30** 代の若いメインフレームのプロフェッショナルおよび、メインフレーム初心者もサポートしています。最近では **SHARE** をパートナーに、**zNextGen** というコミュニティを作り上げました。このグループはメインフレーム・プロフェッショナルの若者と「メインフレーマー」たちを繋ぎ、コミュニケーションをとる場としての役割を果たしています。

SHARE の経験ある年配のメンバー達は彼らに情報を提供し、教育、指導およびネットワーキングの機会も与えています。更に **IBM** からのサポートによって、この二つの団体はコンピューティング資料、技術的アシストや他のサポートを必要に応じて提供しています。

計画外のダウンタイムのない未来へ

新世代のITプロフェッショナル達にとって、メインフレームはチャレンジしがいのある分野となります。業界からの奨励もあり、コアビジネスを「Big Iron」に任せている企業は、今後も次の世代が確実にイニシアチブをとっていくので安心して任せられるでしょう。

「IBM が、これが長期的な課題だと認識し、時間をかけて対処していこうとしていることはとても将来的にも心強いことだと思います。」と SHARE の Rosen 氏は語っています。

(参考) 日本での活動などについては、以下をご覧ください。

[メインフレーム憲章](#)

[メインフレーム・コミュニティーに関する活動](#)

大学セミナーに関しての活動 [PROVISION NO.42](#)